

ママと娼婦 (1973)

LA MAMAN ET LA PUTAIN
THE MOTHER AND THE WHORE

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 220分
初公開日 1996/03/23
公開情報 ユーロスペース
リバイバル 2001/03 [ユーロスペース]

【解説】

モノクロ16ミリ、撮影レンズは50ミリのみという、製作当時としても極めて時代逆行的な方法で作られた作品。3時間40分にも及ぶ、どうしようもない男と母性的な年上の女、娼婦のごとき若い看護婦の恋愛模様が、内省的というよりもただだらだらした展開で描かれているのに、なぜこんなに面白いのだろう。それこそが、この若くして自殺したユスターシュの不可思議さだ。

カフェで毎日を無為に送る青年アレクサンドルは、ブティックを経営するマリーの部屋に居候している。彼はつきあってきた女にフラれるとすぐにヴェロニカに声をかけ親しくなる。そのことを報告すると、マリーは一度は嫉妬しながらもすぐに許してしまう。やがて三人の奇妙な共同生活が始まり、皆がベッドを共にすることもありながら、それぞれの孤独、諍い、恐怖が錯綜し、彼らは絶望的に疲れてゆく……。68年の5月革命に敗れた若者たちを端的に捉えた作品と評されるが、ここに表される心象は実に普遍的なものではなかろうか。だからこそ、観る人によってはこの4時間弱が瞬く間に過ぎ去ってしまうのだ。

【クレジット】

監督	ジャン・ユスターシュ	Jean Eustache
製作	ピエール・コトレル	Pierre Cottrell
脚本	ジャン・ユスターシュ	Jean Eustache
撮影	ピエール・ロム	Pierre Lhomme
出演	ベルナデット・ラフォン	Bernadette Lafont
	ジャン＝ピエール・レオ	Jean-Pierre Leaud
	フランソワーズ・ルブラン	Francoise Lebrun
	イザベル・ヴェンガルテン	Isabelle Weingarten
	ジャック・レナール	Jacques Renard
	ジャン＝モエル・ピック	